



## TOPICS

12月1日(木)に横浜市で開催された第7回図書館総合展で、フォーラムの1つとして「子どもの本この1年を振り返って2005年」が、“NPO図書館の学校”主催により行われました。第1部は「YA世代を知る - 10代の心と性 - 」と題して、産婦人科医であり、『学校で教えない性教育の本』等の著書がある河野美香氏の基調講演、第2部は、「今年の子どもの本」として、絵本・フィクションなどの4分野からの報告がありました。各分野40分という短い時間の中で、実際の本を手にとりながら多くの本が紹介され、聞き手も相槌を打ちながら熱心にメモをとる姿が見られました。  
(裏面にて、概要を紹介します。)

## 子ども図書研究室のテーマ展示

「鬼の本」(1月中旬まで)  
「県内図書館作成ブックリスト」  
「第17回読書感想画中央コンクール指定図書」

## イベント情報

### 三島市立図書館講座

「あたらしい自分に出会う 私が本を出版するまで」

講師：わだ ことみ氏(絵本作家)

日程：平成18年2月18日(土)

時間：14:00~15:30

会場：三島市民生涯学習センター 3階 講義室  
(三島市大宮町1-8-38)

定員：70名(定員をこえた場合は抽選)

受講料：無料

持ち物：筆記用具

申込み：平成18年2月11日(土)までに三島市立図書館へ  
直接または電話でお申込みください。

問合せ先：三島市立図書館

TEL055-983-0880

<http://tosyokan.city.mishima.shizuoka.jp>

## 新着図書から

『くっついた』



三浦 太郎 / 作・絵  
こぐま社  
2005年8月

ポローニャ国際絵本原画展に4度入賞し、スイス、イタリアで絵本の出版をしたイラストレーターの絵本。「わが子と過ごす時間の中から出てきた絵本」と書かれている。

動物が出てきて、「くっついた」という場面の展開が、ラストで「おかあさんと わたしが」「くっついた」「おとうさんも くっついた」となり、デザイン的ではあるが、暖かみのあるイラストで、子どもを意識したものになっている。

日本の子どもに向けて絵本を作るのは、今作品が初めて。  
(栗山)

『まじめなフレッドおじさん』

ティム・イーガン / 作  
もき かずこ / 訳  
ソニー・マガジズ  
2005年9月

農場のフレッドおじさんはまじめで笑うことがない。「トマトをみてわらえるか？」もっと楽しい農場にしたいと思った動物たちは、おじさんを笑わそうと様々な作戦に出るが、どうやっても笑わないおじさんにがっかりし、家出する。

フレッドおじさんと瓜二つ、眉まである動物たちの表情も実にまじめで笑いを誘う。おなかを抱えて笑うストーリーではないが、おじさんの駄洒落が後を引く絵本。

幼い子よりもむしろ、このユーモアを解する年齢の子どもにおすすりめしたい。  
(鈴木)

## 子どもの本この1年を振り返って 2005年

**基**調講演の講師河野氏は、産婦人科医であるとともに、全国の学校で性教育の講演をされている。河野氏の病院を受診する10代の子どもの受診理由は、2割が性感染症、1割が妊娠(うち、60~70%が中絶)ということだ。「性教育については、寝た子を起こすことになるので、しない方がよいという意見もあるが、きちんとした情報を知っている子の方が、安易に踏み込まないのでは」と言われた。また、「子どもが手にとって読む性教育の本は少ない」、「雑誌、特に男性向けの雑誌に書かれている性に関する事のうち、正しいことは5割にも満たない」などの話は、考えさせられた。

**午**後からは、今年の子どもの本について、4分野に分けての報告があった。それぞれの分野で、印象に残った内容は次のとおり。

**絵本**：最近の日本の絵本には、「絵」を楽しむ絵本が多い。こういう絵本ばかりだと言葉が育たない。おはなしそのものを本当に楽しめる絵本、物語が魅力的な絵本、「ことば」が豊かに語っている絵本が、もっともっと生まれてほしい。

**フィクション**：ファンタジーの出版は、一時より少なくなったが、一つの分野として確立した。大人向きのもので多い中で、小学生向きのもも出てきている。

**ノンフィクション**：『そだててあそぼう』などの、良い定番の本が引き続き出版されている。クモやゴキブリの本のように隙間を埋めるものが、複数の出版者から出版される。岩波ジュニア新書なども、大人が目を通して、必要な時に子どもに手渡せるようになってほしい。

**ヤングアダルト**：児童書と一般書がYAに近づいてきて、これがYAという境が難しくなってきた。内容も多様化している。また、大人がYAと思うものとその世代が選ぶものがずれてしまうことがある。

**最**後の言葉は、「子どもが読みたいと思ったとき、必要としたとき、それにふさわしい本を手渡せるように、がんばって多くの本に目を通しましょう」。評価の定まった本はもちろん、新しく出版される本も、できるだけ目を通していきたいと気持ちを新たにした。

なお、今回の内容は、『子どもの本 この1年を振り返って 2005年』として2006年4月に出版される予定である。

### 所蔵資料から

ヤングアダルト分野で紹介された本から、2冊紹介する。

『学校で教えない性教育の本』



ちくまプリマー新書

河野美香 / 著

筑摩書房

2005年3月

著者が、実際に学校で講演をしたときやプライベートに受けた質問をもとに、Q & A形式で書かれている。タイトルからイメージしてしまうような内容ではなく、まじめに正しい情報・知識を伝えようとしている。

『素数ゼミの謎』

吉村仁 / 著

石森愛彦 / 絵

文藝春秋 刊

2005年7月

アメリカに13年または17年おきに、同じ場所で大量発生するセミがいる。「なぜ、13年と17年おきか?」「なぜ、同時に大量発生するのか?」について、素数をキーに、氷河時代までさかのぼる。イラストを多く使い、やさしく説明されている。

(殿岡)